

# 平安京右京三条一坊七町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 平安京右京三条一坊七町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび土地区画整理事業に伴います平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

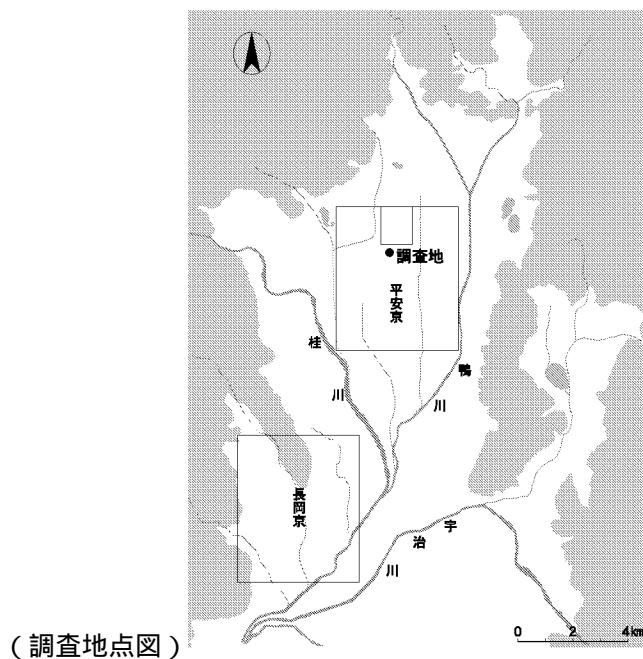
平成16年7月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条一坊七町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京星池町39番地
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 2004年5月6日～2004年5月31日
- 5 調査面積 95m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺 構 番 号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺 物 番 号 通し番号を付した。
- 14 掲 載 写 真 村井伸也・幸明綾子・調査担当職員
- 15 遺 物 復 元 村上 勉・出水みゆき
- 16 基準点測量 宮原健吾
- 17 本書作成 布川豊治
- 18 編集・調整 児玉光世・清藤玲子



# 目 次

1 . 調査経過	1
2 . 遺 構	2
( 1 ) 層 序	2
( 2 ) 遺 構	2
3 . 遺 物	6
( 1 ) 遺物の概要	6
( 2 ) 土器類	6
( 3 ) 木製品	7
4 . ま と め	7

# 図 版 目 次

図版 1	遺 構	1	調査区全景（西から）
		2	溝 1 と柱穴列（北西から）
		3	南北柱穴列（北から）

# 挿 図 目 次

図 1	調査位置図（ 1 : 2,500 ）	1
図 2	調査前全景（東から）	2
図 3	調査風景（西から）	2
図 4	平安時代から室町時代遺構実測図（ 1 : 100 ）	3
図 5	江戸時代遺構平面図（ 1 : 100 ）	4
図 6	溝 1 南壁断面図（ 1 : 40 ）	5
図 7	出土遺物実測図（ 1 : 4 ）	6
図 8	緑釉風字硯	7
図 9	唐津折口皿	7
図 10	周辺の調査と関連遺構（ 1 : 500 ）	8

# 表 目 次

表 1	遺構概要表	.....	5
表 2	遺物概要表	.....	6

# 平安京右京三条一坊七町跡

## 1. 調査経過

調査地はJR二条駅西側、京都市中京区西ノ京星池町39番地にある住宅跡地である。今回の発掘調査は、京都都市計画（京都国際文化観光都市建設計画）都市計画事業二条駅地区土地区画整理事業に伴うもので、同事業関連の調査としては1992年度から続く19次調査となる。

調査地の周辺では、二条駅地区土地区画整理事業、御池通西進延長工事、地下鉄東西線西進工事などが行われ、1989年以来、多くの発掘調査が実施されている。当地は、平安京右京三条一坊七町にあたり、西坊城小路に隣接する。七町は『拾芥抄』によれば穀倉院が置かれた所である。周辺の調査で検出した平安時代の遺構は、北側の御池通西進延長工事に伴う1997年調査の1区で、東西2間の南北棟建物、南北柵列、池の東岸を検出した。南側の二条駅地区土地区画整理事業に伴う2001年度調査では、南北棟建物、三条坊門小路・側溝、築地や西坊城小路東側溝などを検出した。西側の地下鉄東西線西進工事に伴う2002年調査では、池と溝を検出した。

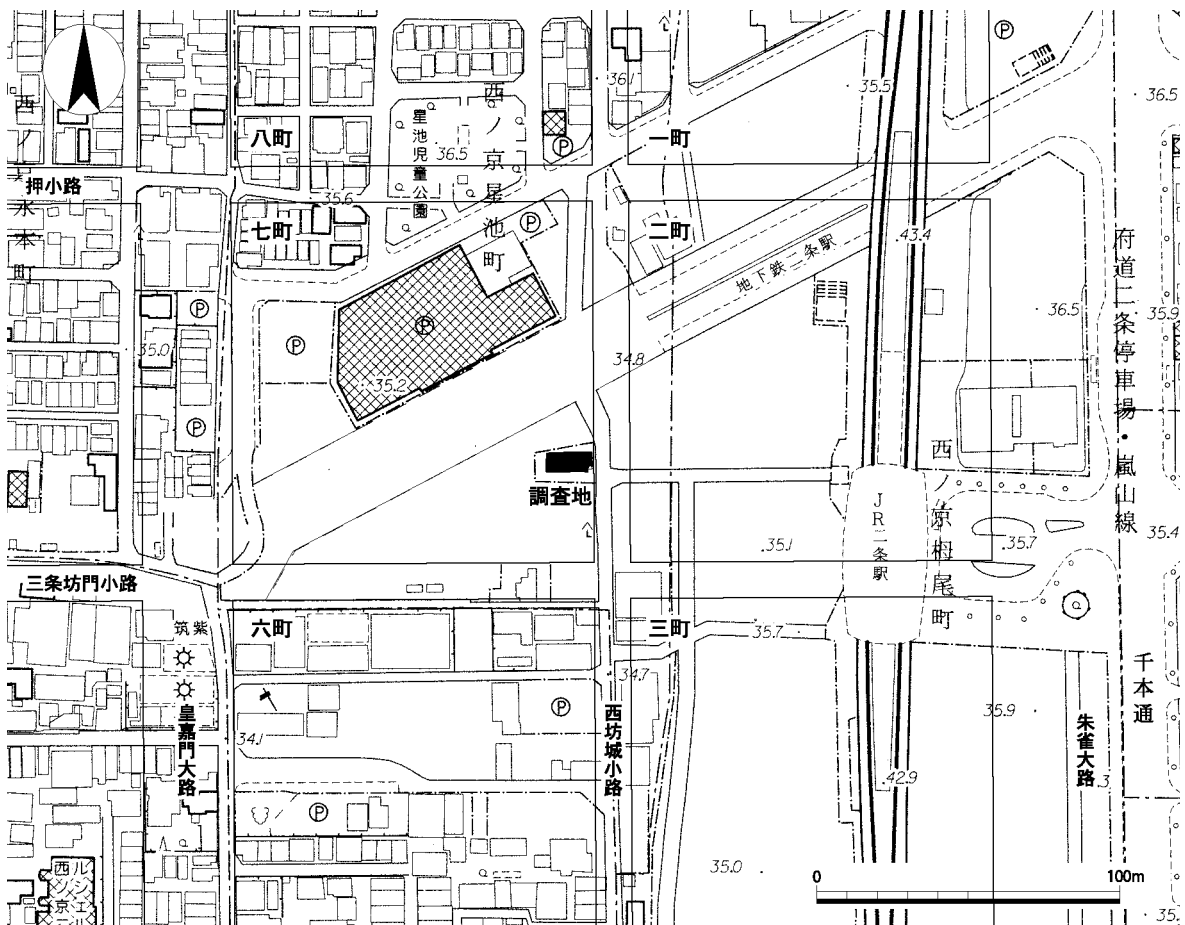


図1 調査位置図(1:2,500)



図2 調査前全景（東から）



図3 調査風景（西から）

調査は5月6日から資材搬入を開始した。調査区は、七町の東面築地位置と周辺の調査で検出した南北棟建物の延長が含まれる範囲、東西約15m、南北約7mに設定し、11日に重機掘削、翌日から手作業による調査を行い、地山の直上面で、平安時代から江戸時代の遺構を検出した。19日に調査区東側で検出した南北溝の東肩を確認するため、0.36㎡を、26日に南北棟建物の西側柱穴列の確認のため、0.25㎡を拡張した。24日、全景写真を撮影し、引き続き、断割り、図面記録などの調査を行い、27日、埋め戻し、28日に資材の搬出、週明け31日に、リース物品・事務所ハウスの返却の後、事務所下の既設歩道清掃、仮囲いフェンスの固定を終え、調査を終了した。

## 2. 遺 構

### (1) 層 序 (図4)

調査区の層序は、調査区北壁Y=-23,414付近で、地表から厚さ50cm前後が石炭ガラの多く混じる現代盛土であり、その下は、ガラス・鉄クズなどが混じる厚さ10~20cmの近代盛土（黒褐色砂泥）である。下には、本来厚さ10cm前後の近世耕作土があるが、ここでは認められない。その下層は灰色砂泥の地山となる。さらに下層に黄褐色砂礫の地山がある。その標高は、約34.0mであり、西へ漸次下がり、調査区西端で標高約33.4mである。断割により、さらに深さ約1mまで砂礫層を確認した。

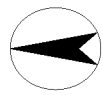
### (2) 遺 構 (図4~6)

遺構検出面は、地山直上の1面のみであり、その面で平安時代から江戸時代の遺構を検出した。調査区西半では、灰色砂泥を採取した土取穴を検出した。その底は、砂礫層直上まで至る。

#### 平安時代から室町時代 (図4)

土壙58 調査区南東部で検出した。円形状であるが、北と南を江戸時代の土壙に切られる。東西約0.4m、南北約0.5m、深さ約0.2m、埋土は黒色砂泥である。小片であるが、土師器、黒色土器、瓦など、40数点の遺物が出土した。調査区唯一の平安時代前期の遺構である。

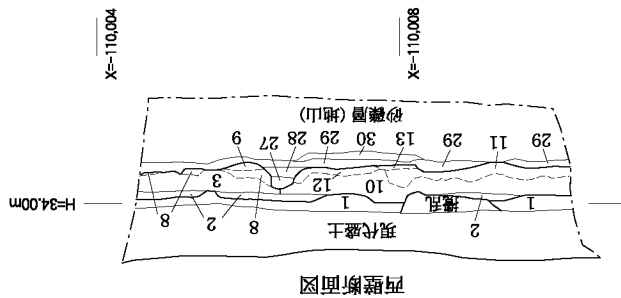
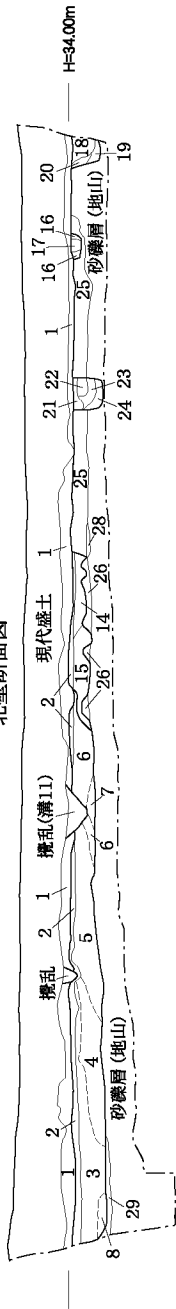




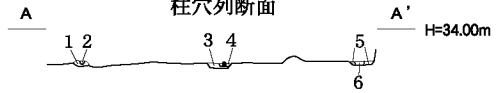
- |                        |                         |                             |
|------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 1 近代盛土                 | 11 2.5Y3/1黒褐色砂泥、混青灰色粘質土 | 21 2.5Y3/2黒褐色砂泥             |
| 2 2.5Y3/1黒褐色砂泥 (耕作土)   | 12 N5/(Y) 灰色砂泥          | 22 2.5Y3/2黒褐色砂泥、粘質          |
| 3 2.5Y4/1黄灰色砂泥         | 13 2.5Y3/1黒褐色砂泥、混砂      | 23 2.5Y3/1黒褐色砂泥、灰色砂泥        |
| 4 2.5Y3/1黒褐色砂泥、やや粘質    | 14 2.5Y3/1黒褐色砂泥、耕作埋土    | 24 2.5Y3/1黒褐色砂泥、混黄色ブロック     |
| 5 2.5Y4/1黄灰色砂泥、やや粘質    | 15 2.5Y4/1黄灰色砂泥 (耕作土)   | 25 N5/(Y) 灰色砂泥、粘質 (地山)      |
| 6 2.5Y3/1黒褐色砂泥、やや粘質    | 16 2.5Y3/1黒褐色砂泥 (柱穴43)  | 26 10Y4/1灰色砂泥、やや粘質 (地山)     |
| 7 5Y4/1灰色砂泥、やや粘質       | 17 2.5Y4/1黄灰色砂泥 (同柱あたり) | 27 N5/(Y) 灰色粘土 (掘山)         |
| 8 2.5Y3/1黒褐色～灰色砂泥      | 18 2.5Y3/1黒褐色砂泥         | 28 5B4/1暗青灰色シルト (地山)        |
| 9 N5/(Y) 灰色砂泥、粘質       | 19 2.5Y3/2黒褐色砂泥、粘質      | 29 5B4/1暗青灰色細砂 (地山)         |
| 10 2.5Y4/1黄灰色砂泥 (土壌49) | 20 2.5Y3/2黒褐色砂泥、粘質 (溝1) | 30 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂～泥砂 (掘山) |



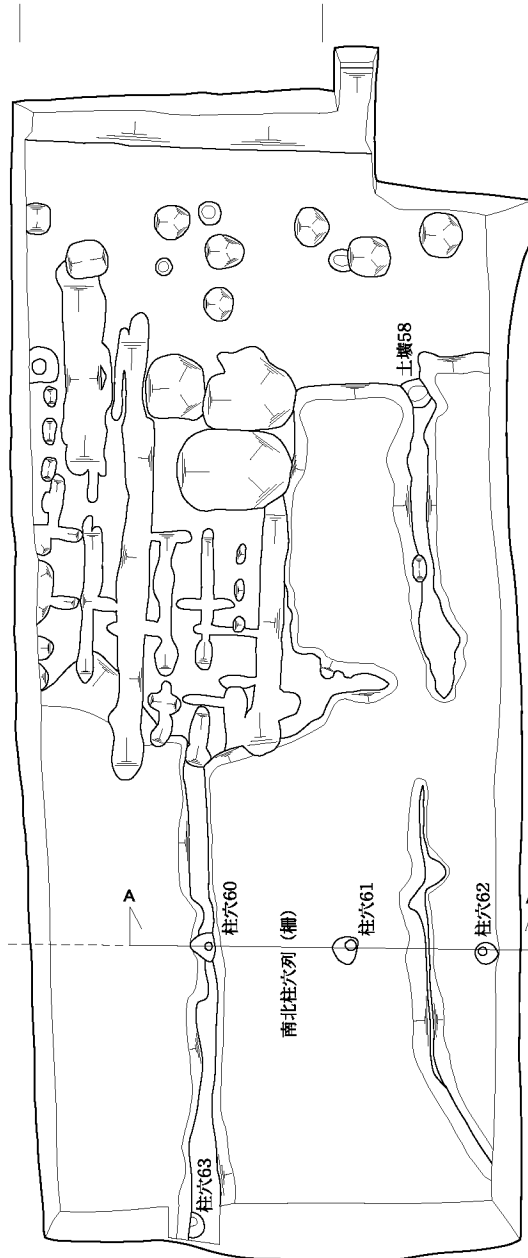
北壁断面図



柱穴列断面



- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥    | 4 7.5Y5/2灰オリーブ色砂泥、混糠 |
| 2 7.5Y5/1灰色砂泥     | 5 5Y5/1灰色砂泥、混黒褐色ブロック |
| 3 7.5Y5/2灰オリーブ色砂泥 | 6 5Y5/1灰色砂泥、混炭       |



Y=23.412

Y=23.420

図4 平安時代から室町時代遺構実測図 (1:100)

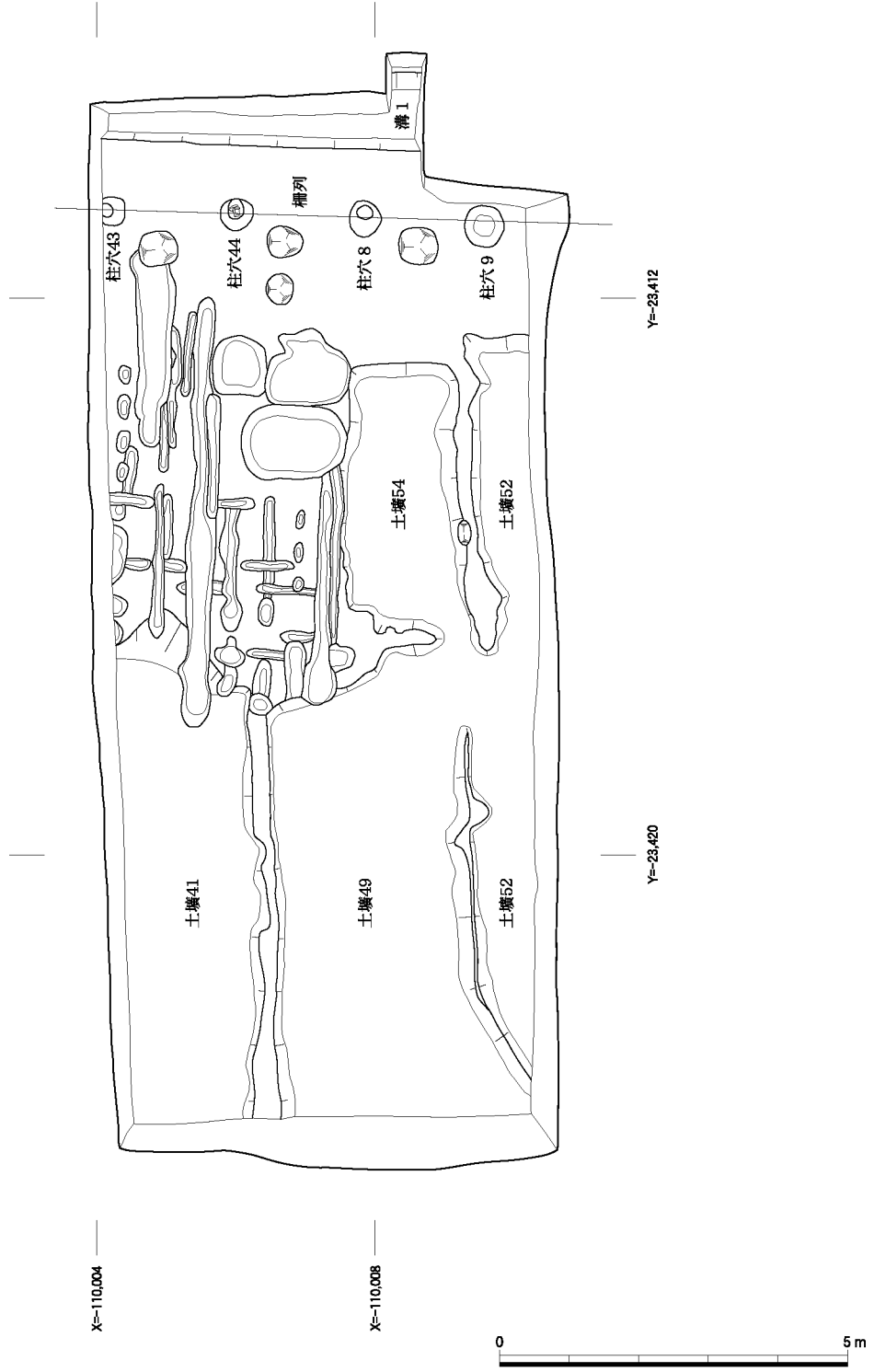


図5 江戸時代遺構平面図(1:100)

南北柱穴列 調査区西側の土取穴底部で、柱穴60・61・62を検出した。北向きで東へ約1.9°振れる。柱穴列は、南北に並び、柱間は約1.8mである。直径0.3～0.35m、深さは約0.1m残存していた。直径0.1～0.2mの柱あたりがあり、柱穴61は中に石を伴う。平安時代の小片の土器が、数点、出土した。

また柱穴60から西へ2間(約3.6m)の西壁を一部拡張し、柱穴63を検出した。北半分を江戸時代の土取穴に切られる。直径約0.4m、深さ約0.3mある。柱あたりはなく、抜取穴状である。中世の遺物が3点出土した。さらに柱穴63から南へ約1.8m・柱穴61から西へ約3.6mの地点を精査したが、柱穴は検出できなかった。土取穴で削平されたと考える。

その他にも調査区東側で、柱穴4基を検出した。出土遺物は、いずれも小片が数点である。時代は不明であるが、埋土と考えあわせて、平安時代から室町時代の間と考えておく。

#### 江戸時代(図5)

溝1(図6) 調査区東端で南北溝を検出した。範囲は、南北約4.5mである。北向きで東へ約2.1°振れる。幅約1.1m、深さ0.35～0.4mある。北に向けて浅くなる。溝は新旧2時期あり、新期の溝東肩に、護岸の施設と思われる柱穴57を検出した。出土遺物から新旧とも江戸時代初期と考える。

柱穴列 調査区東部で柱穴43・44・8・9を検出した。溝1の芯から西約1.6mの位置で、南北に並び、直径0.4～0.5m、深さ0.1～0.2m、柱間約1.8mある。柱穴9には柱あたりが認められない。遺物は、平安時代の瓦片や灰釉系山茶椀、土師器(中世)など、いずれも小片のものが出土した。溝1に沿うことから、それに伴う柵などの施設と考える。

その他に耕作溝、土壇、土取穴を検出した。耕作溝は、江戸時代前半と考えるが、主に東西溝と、それらを切る南北溝を検出した。土取穴は、おもに調査区西部で検出した。平安時代から江戸時代の遺物が出土した。江戸時代後半の遺構と考える。深さは、いずれも砂礫の地山面まで掘られる。

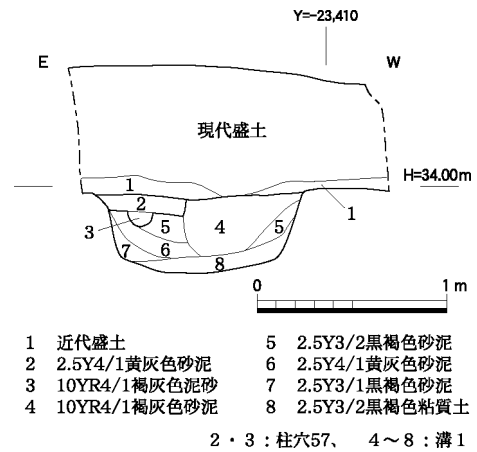


図6 溝1南壁断面図(1:40)

表1 遺構概要表

時代	遺構
平安時代～室町時代	柱穴、柱穴列(柵)、土壇
江戸時代	柱穴、柱穴列(柵)、耕作溝、南北溝、土壇(土取穴など)

### 3. 遺物

#### (1) 遺物の概要

出土遺物は、平安時代から江戸時代のものが出土した。江戸時代のものが大半である。平安時代の遺物は、後世の遺構からの出土が多く、小片である。また瓦類は、小片の軒丸瓦片が1点、丸瓦と平瓦が、後世の遺構から数十点出土している。

中世の出土遺物は、少なく小片である。

江戸時代の出土遺物は、土取穴から主に出土しているが、全体の形がわかるものは少ない。

#### (2) 土器類 (図7～9)

ここでは調査区から出土した主な土器類を記述する。

(1)は軟質で磨滅の激しい須恵器の底部である。調査区中央南部の土壌52から出土した。平安時代の壺(瓶子)であろう。(2)は灰釉陶器皿である。調査区西部の土壌49から出土した。内面に重ね焼き痕が残る。9世紀後半のものである。(3)は緑釉風字硯である。調査区西部の土壌41、49から4片出土し、同一個体である。平安時代前期のものである。(4)は唐津折口皿である。調査区東端の溝1から出土した。内面に重ね焼きの砂目圧痕が残る。17世紀前半のものである。

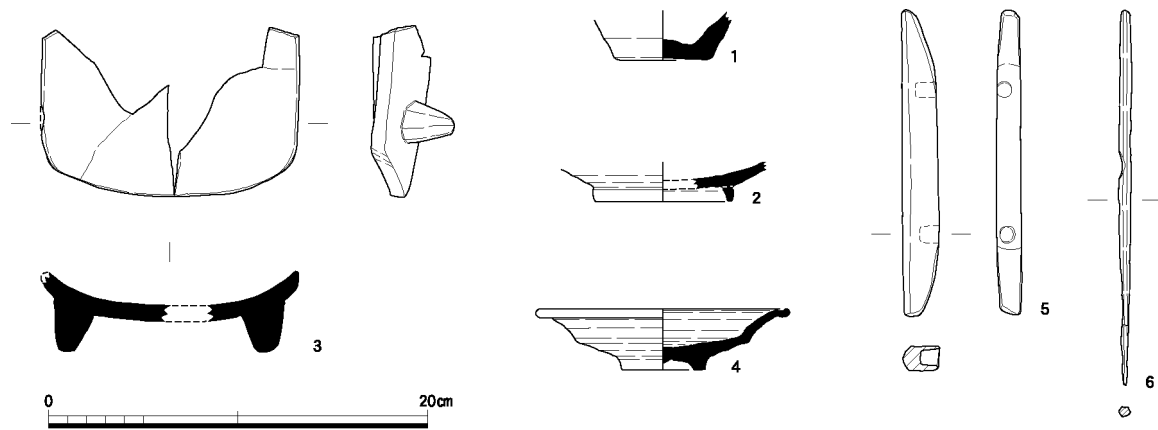


図7 出土遺物実測図(1:4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代 ～室町時代	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉陶器、瓦器、施釉陶器、輸入白磁 ・青磁、軒丸瓦、瓦類	2箱	須恵器1点、 灰釉陶器1点、 緑釉風字硯1点	1箱	0箱
江戸時代	土師器、焼塩壺、施釉陶器、焼締陶器、 磁器、瓦類、土製品、木製品	3箱	施釉陶器1点、 木製品2点	2箱	1箱
合計		5箱	6点(1箱)	3箱	1箱



図8 緑釉風字硯



図9 唐津折口皿

### (3) 木器類 (図7)

木製品が、調査区中央部南寄りの溝11 (近代攪乱) から2点出土している。(5) は糸巻の縦の部材と思われる。(6) は箸である。攪乱からの出土であるが、出土状況から江戸時代と考える。

## 4. ま と め

調査区西半部で検出した南北柱穴列は、調査区北側の御池通の1997年度調査の1区<sup>2)</sup>で検出した南北棟建物SB1と、調査区南側の2001年度調査の七町地区<sup>3)</sup>で検出した南北棟建物SB20をつなぐ線上に位置する。調査区の南北柱間約1.8mは、前述の検出した南北棟建物の柱間とほぼ一致する。1997年度調査と2001年度調査の遺構から、確認できた南北柱穴列の長さは、約56.5mに及び、31間を復元できる。両調査の報告では、これらの柱穴列を南北建物としたが、南北の長さが長大であることや、各柱穴が小型でしかも梁行が3.6mと長いことなどから、2条の柵列であると考えするのが妥当である。調査区の南北柱穴列は東側柵列に位置する。その時期は、「SB1は、池との関係で平安時代中期」としていること、「SB20は、出土遺物から平安時代中期」としてること、調査地の南北柱穴列から、数点の平安時代の小片土器が出土したことから、平安時代中期と考えるのが妥当である。また調査区西端、東西の柱間約3.6mで検出した柱穴63は、建物をつなぐ西側線上に位置しないこと、柱あたりがなく、出土遺物が中世であることから、柵列の柱穴ではないと考える。

調査区東半部の砂礫の地山上では、確実な平安時代の遺構は土壌58しかない。推定七町の東面築地および内溝などを検出できなかったが、このことは、1997年度調査の報告で「西坊城小路側溝はない」ことや、2001年度調査の報告のまとめで述べられている「東面築地位置にはその痕跡は検出されていない。また、1993年度に実施された二町部分<sup>4)</sup>の試掘調査では西坊城小路及び押小路推定位置で路面や側溝等の遺構は検出されていない。これらの事実から穀倉院の中には小路が敷設されていなかった可能性が深まった。」ことなどを、さらに裏付ける。これらのことから、南北柵列の性格は、条坊に関連する施設ではなく、穀倉院内の土地利用を限るものであろうが、詳細は不明である。

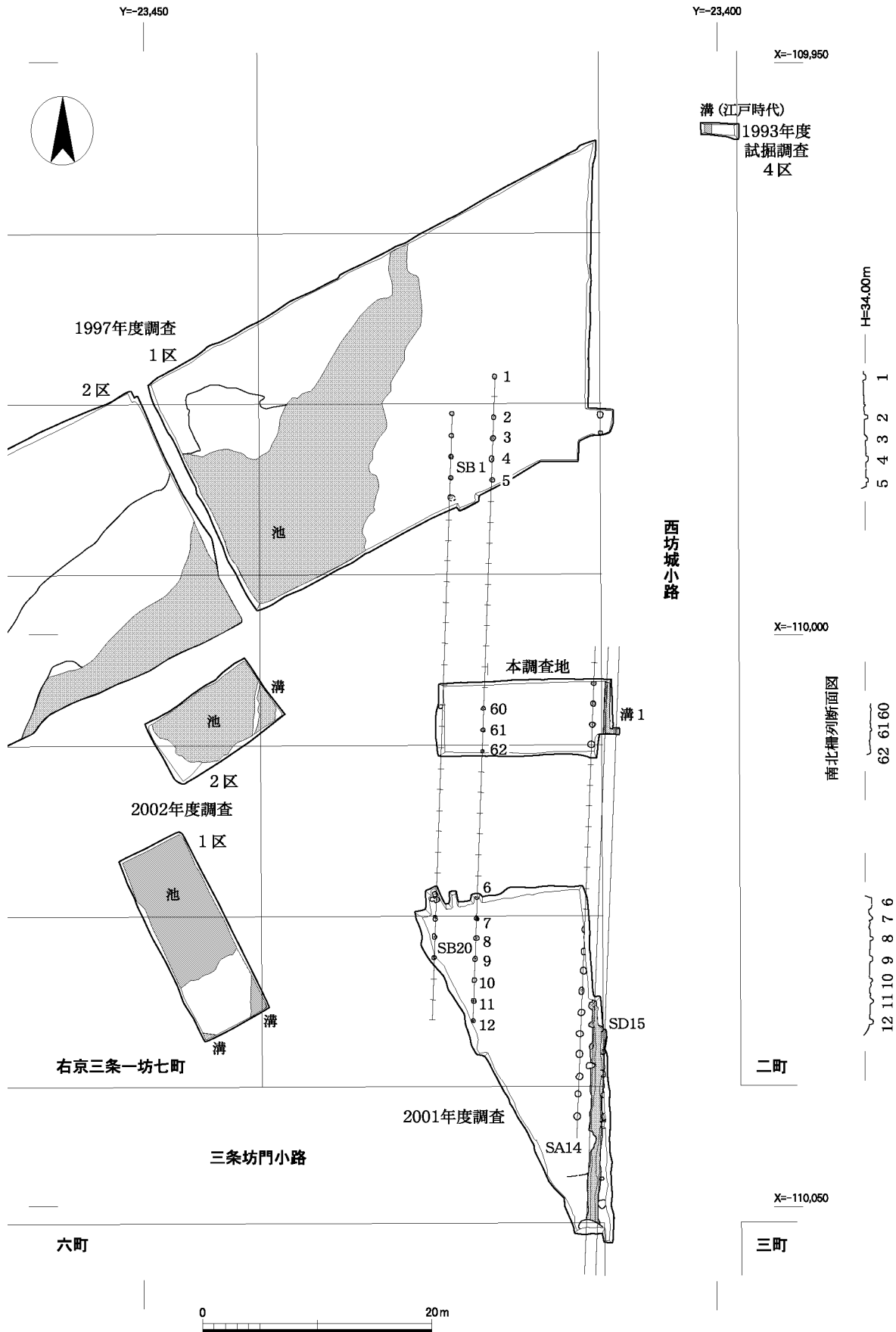


図10 周辺の調査と関連遺構 (1:500)

調査区東端で検出した溝 1 および並行する南北柱穴列は、2001年度調査の七町地区で検出した SD15（江戸時代、幅約 1.1m、深さ 0.6m）と柵 SA14 の北延長線上に位置し、幅や柱間がほぼ一致することから、同一の遺構と考える。溝底の標高は、溝 1 北端で 34.60m、SD15 の南端で 33.15m あり、北から南へ低くなる。江戸時代前期の絵図にみられる調査地周辺の土地利用は、東は千本通まで、南は三条通まで、宅地でなく「畑」となっている。その広い空間に、溝と柵があるのは、なんらかの区画をなすためと考えられるが、二条城近辺に集中する役所邸宅と畑との境界をなすものか、または絵図に見える群境界に関連する施設と考えることもできるが、詳細は不明である。

#### 註

- 1) 出土の類例としては、平尾政幸・加納敬二ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1990年や、鈴木廣司・網 伸也ほか『平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「齋宮」の邸宅跡 - 』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年などがある。
- 2) 吉村正親「平安京右京三条一坊 4」『平成 9 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 3) 本 弥八郎・山口 真・平尾政幸『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 4) 平田 泰「平安京右京三条一坊 6」『平成 5 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年

# 圖 版



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょういちぼうななちょうあと							
書名	平安京右京三条一坊七町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2004-3							
編著者名	布川豊治							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2004年7月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょういちぼう 三条一坊 ななちょうあと 七町跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしきょうほしがいけちょう 西ノ京星池町	26100		35度 00分 29秒	135度 44分 36秒	2004年5月 6日～2004 年5月31日	95m <sup>2</sup>	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 三条一坊 七町跡	都城	平安時代 ～室町時代	柱穴・柵・土塙	土師器・黒色土器・須 恵器・灰釉陶器・緑釉 陶器・瓦器・施釉陶器 ・輸入陶磁器・瓦類				
		江戸時代	柱穴・柵・土塙・ 溝	土師器・施釉陶器・焼 締陶器・磁器・瓦類・ 土製品・木製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-3

## 平安京右京三条一坊七町跡

発行日 2004年7月30日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 075-256-0961